

1月

みんぱくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。

どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

※「たっぷりアメリカ―春のみんぱくフォーラム2012」期間中はアメリカにまつわるお話をお届けします。

8日
(100日)

話者：鈴木七美（国立民族学博物館 教授）

話題：アーミッシュ・キルトの世界

場所：本館展示場内ナビひろば

15日
(100日)

話者：山本紀夫（国立民族学博物館 名誉教授）

話題：世界を変えた栽培植物

場所：本館展示場内ナビひろば

22日
(100日)

話者：齋藤晃（国立民族学博物館 准教授）

話題：チュルカナスのやきもの

場所：アメリカ展示場

29日
(100日)

話者：八杉佳穂（国立民族学博物館 教授）

話題：アステカの暦

場所：アメリカ展示場

1年間みんぱくに何度でも入館できる「みんぱくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。

(電話06-6877-8893/平日9:00～17:00)

編集後記

人も馬齢をかさねると「一年ははやいですね」は日常あいさつ程度の意味しかないが、もう年始の干支特集号の出番となった。干支といえば、いままで気になっていることがひとつあった。今回の干支のたつのことだが、なぜ竜や龍とならんで辰の文字がつかわれるのだろうか。そういえば他の十二支も申（さる）にしろ日（へび）にしろ、ひとつとして動物の漢字ではない。調べてみると、十二支は古代中国で十二年の循環を生物の成長の輪廻にたとえたもので、辰は息吹こうとする命の躍動などを示したとのこと。覚えやすいように竜を当てただけで、本来そんな意味はない。ちょっとの時間でわかること、この歳までほうっておいた自分を少し反省した次第。

今月号からあらたなシリーズ「多文化をあきなう」が始まった。マイノリティの自立支援をめざし、彼らの文化を基軸にあえて商売としてグローバル経済と立ち向かおうとする市民運動をとりあげる。フェアトレードなど今後成長株の市民運動として注目していきたい。（庄司博史）

●表紙：祭礼用 船く早船（かんせん）>
地域 中国 標本番号 H0229874

次号の予告

特集

座談会 東日本大震災を考える（仮）

月刊みんぱく 2012年1月号

第36巻第1号通巻第412号 2012年1月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂

編集委員 庄司博史（編集長） 樫永真佐夫 川口幸也

久保正敏 菅瀬晶子 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一敦

制作・協力 財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

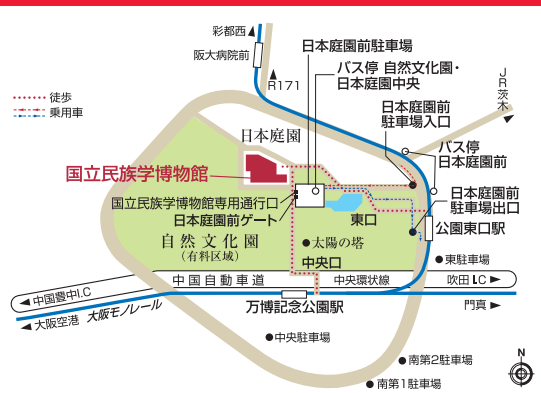
交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてください。



みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

